

新しいいのちへの適応; 本質は行いに表れる ガラテヤ 6:1-6

1. 「兄弟たちよ。もしだれかがあやまちに陥ったなら、御霊の人であるあなたがたは、柔和な心でその人を正してあげなさい。また、自分自身も誘惑に陥らないように気をつけなさい。（ガラテヤ 6:1-2）」
 - a. 御霊による新生は、成長過程をたどるという意味で初めて生まれた時との共通点がある。
 - b. 信じた者が持ちがちな最も危険な考えの一つに、自分は完璧で正される必要はないと思ってしまうことがある。神も高ぶる者には敵対する（ヤコブ 4:6、1 ペテロ 5:5）。
 - c. 誰かを正してあげる時には私たち自身もその過程で罪に陥ることがないように、高ぶらず、謙遜を持って柔和に接することが大切。

2. 「だれでも、りっぱでもない自分を何かりっぱでもあるかのように思うなら、自分を欺いているのです。おのおの自分の行いをよく調べてみなさい。そうすれば、誇れると思っただけの誇りで、ほかの人に対して誇れることではないでしょう。人にはおのおの、負うべき自分自身の重荷があるのです。（ガラテヤ 6:3-5）」
 - a. 良い知らせ（福音）には義認というギフトがついてくるが、私たちの行いすべてが義となるわけではない。私たちのふるまい、態度、行動は評価され、それに応じて報いを受ける（ガラテヤ 6:9）。
 - b. ここでは自分たちは神から召された役目以上の者だと思っている者たちがいた。彼らは使徒のふりをして不正に権限を使い、福音のメッセージを勝手に変えようとする偽教師たちであった。しかし彼ら自身の行いを調べれば、使徒としての召しを受けておらず、神の権威に従っていないということに気付くはず。
 - c. 私たちの行いを正しく吟味するには、みことばは何とっているか理解することが大切。私たちの行動の基準はみことばを通して与えられており、この世の基準と合わせてはいけない。

3. 「みことばを教えられる人は、教える人とすべての良いものを分け合いなさい。（ガラテヤ 6:6）」
 - a. 神が評価される最も重要なものの一つに権威がある。神から与えられた権威をどのように取り扱っているだろうか。
 - b. 神の民が映し出すべき天の御国のイメージというのは栄光に満ちたものである。栄光は様々な形で表現されるが、あなたが栄光を帰すところがあなた自身の本質を表している。